キッズみんなの日記

2月号

昨年の夏は、記録的な猛暑だったかと思えば、今年は大寒波に大噴火。そんな中でも、皆さんの日記や作文が心を温め、元気にしてくれます。

とうとう、作文の練習は今年度これで最後です。この二ヶ月間、予想以上のみなさんの成長に驚いています。今月は総仕上げとして、低学年のみなさんも、同じ題材に挑戦してみましょう。

- 題材…【低・高学年共通】
  2／8～2／12①『ドラえもん』
  2／15～2／18②『ぼくは（私は）、おこったぞ！』
- 制限時間…10分を目標に、とにかく書く！
- 字数の目安…【低学年】240字以上
  【高学年】400字以上
- 消しゴムは使わず、間違いは横に直す

一週目と四週目はいつも通りの日記で構いません。高学年のみなさんは、今月は「終わりの文」を工夫してみましょう。あれこれ書き広げてしまっても、終わりの文では、きちんと題（タイトル）の内容に戻る、または、その内容をからめて書くと、うまくまとまり、読み手も安心する文章に仕上がります。

「終わりの文」を工夫する

① **「まとめ」**の言葉で終わる
だから、ケンカになったのだ。
けっきょく、私からあやまり、仲直りをしました。
つまり、ケンカをしても良いことはないということだ。
ようするに、「相手の話は聞こう」ということです。

② **「仮定（想像）」**で終わる
もし、～ならば、～だったでしょう。

③ **「例」**や**「たとえ」**で終わる
たとえば、～のような、～になりたい。

④ **「さけび」**や**「ためいき」**で終わる
少しは、人の話を聞け～！
ふ～っ、どっと疲れがでた。

⑤ **「やれやれ」「さてさて」**などで終わる
やれやれ、弟と私は、いつもこんな調子です。
さてさて、これからどうなることか。

⑥ **「質問」**や**「疑問」**で終わる
みなさんは、どう思いますか。
あのときぼくが言ったことは、正しかったのだろうか。

⑦ **セリフ**で終わる
そのとき、姉が言った。「きっと、うまくできるよ。」

⑧ **反省**で終わる
もう二度と、ウソをつくのはやめようと思いました。

この二週間は、週始めの授業内の10分を使って、担任の先生（国語担当）と作文に取り組みます。最後まで書き上げられなくても、その日は終了です。最後まで書けなかった人は、翌日も、家で10分間、同じ題材に初めから取り組んで下さい。10分間で書き上げられるまで、毎日くり返し挑戦して下さい。

優秀作品紹介

『手のひらのまめ』

「痛ったーい！」

私は思わず叫んだ。手のひらを見てみると、まめの皮がむけて血が出て真っ赤になっていました。

体操の段違い平行棒で一時間くらい練習していると必ずと言っていいほど手の皮がむけます。そのまま痛いのをがまんして続けることもあります。

特に痛いのがお風呂に入るときで、シャンプーやせっけんがむけた所にしみるので、お母さんに洗ってもらう時もあります。

そのおかげで、私の手のひらは、固く、厚く、丈夫になったと思います。

（小五・MSさん）

何何？どうした？と読み手の興味をそそる印象的な書き出しですね！練習の厳しさを「痛み」を使って見事に表現しています。お風呂の場面は、痛みの程度を上手に伝えていますね。頑張り屋さんのSちゃんらしい素敵な日記でした。

『また来られるといいな』

昨日は、幼ち園からの友達の石井たくや君と東京ディズニーランドに行きました。たくとは、とても仲がよく、家族で来るより楽しめました。

まずは、カリブの海賊に乗り、準備運動をしました。そして、二人とも楽しみにしていたビッグサンダーマウンテンに乗りました。これも、スプラッシュマウンテンの準備運動でした。

でも、いざスプラッシュマウンテンを目の前にすると、乗りたくなくなり、たくから、「今日は、やめとくか。」と、ちょうど言われて助かりました。

その後は、他のアトラクションに乗ったり、食べすぎたり、ばかみたいにはしゃぎました。

そうしたら、もう日が暮れていて、夕食を食べ帰るころでした。

たくとは、今は塾や水泳で会うけど、中学校に行ったら会えないのかもしれないし、またいっしょに来られないかもしれないのでさびしくなりました。けれど、お母さん達が、また、来ようねと言ってくれたので絶対に、またいっしょに来たいです。

（小六・SI君）

さすが幼なじみ、以心伝心ですね。ー君の気持ちに、たくや君が気づいたのでしょうか。また、同じ気持ちだったのか……。二人が時間を忘れて、はしゃぎまわる様子が生き生きと表現されているだけに、別れを思う切なさが際だっています。

『友達』

ぼくは、野球をしています。野球を始めた理由は、友達にさそわれたからです。

その友達は、保育園からの友達です。何をするにも一緒にやって、どこにいくにも一緒に行きました。

例えば、習い事は、一緒に同じものをしました。そして、ぼくのおじいちゃんの家にもとまりに行きました。

でも、さすがに高学年になってくると、曜日があわなくなり、一緒にやっていた習い事をやめなければならなくなってしまいました。

でも、野球だけは、今でも一緒にやっています。それは、はっきりとは、わからないけど、野球を始めた日、

「一緒にプロ野球選手になろうね。」

と約束したおかげだと思います。ぼくにとってその友達は、一生のライバルで、一生の親友です。その友達に会えたので、ぼくは大切にしていこうと思いました。

（小六・UY君）

Y君と友達がどれほどの時間を共有してきたのかということを具体的に書き広げ、仲の良さ、大切さを上手に表現しましたね。夢を語り、同じ目標を掲げ、共に続ける。ライバルであり、親友だというのもうなずけます。いつまでも大切にね。

★★★課題作文部門★★★

『わたしのかぞく』

わたしのかぞくは、四人かぞくです。おねえちゃんは、べんきょうがおわったらあそんでくれます。でも、べんきょうをしているときは、いつもしゅうちゅうしています。わたしは、そのようすをみて、すごいなぁとおもいました。

つぎは、おかあさんをしょうかいします。おかあさんは、いつもわらっているけれど、おこるとすごいこわいです。

さいごに、おとうさんをしょうかいします。おとうさんは、とてもやさしいです。わたしがわからないとき、おしえてくれます。本も読んでくれます。

（小一・NHさん）

お姉ちゃん、お母さん、お父さん、と順序よくそれぞれを上手に紹介しています。大好きなお姉ちゃん、笑顔の素敵なお母さん、優しいお父さん、Hちゃんのあたたかい家庭の雰囲気がよく伝わってきます！

『僕の家族』

「フォー。」

ぼくの弟は、いつもにぎやかで、やんちゃで、いつもこんなことを言っているとても元気な性格です。

僕の弟はテレビが好きで、ゲームが好きだけれど、たまに、ゲームに集中しすぎて怒られることがある。それは、僕も同じだ。それが、兄弟共通しているところだと思う。

弟のいい所は、誰にでも協力してあげて、困っているときも進んで助けてあげられることです。

僕はこんなたのもしい弟がいてよかったです。（小六・YR君）

元気で陽気な弟のセリフで文章を始めることで、弟の性格を上手に表現しましたね。普段の様子とR君から見た弟の良い所、人物を多方面から描写することで、その人の特徴を見事に伝えています。説明文のよいお手本です。

『私の家族』

「オギャー!!」という赤ちゃんのうぶ声が病院の待合室まで聞こえました。去年の秋に、我が家に新しい家族が入ってきました。私の妹です。

産まれたときは、そこまで大きくはなかったけど、今は人一倍大きいです。一才三ヶ月で十一キロとはどうなんだろうと思います。でも、私は、

「赤ちゃんはぷっくりしている方がかわいい。」

と思っています。けれど、お風呂に入っておなかを見ると、

「やっぱり太っているなぁ……。」

と思います。でも、どんな妹でも大好きです。

妹は今、すべり台とアンパンマンのおもちゃが一番お気に入りです。妹の一番かわいいと思うところは、笑っているところです。これから妹が大きくなっていっても、仲よしのままでいられたらいいなと思っています。妹と仲がわるくなりたくないです。

（小六・KNさん）

妹が産まれた瞬間の場面を上手く切り取り、産声で始まる印象的な書き出しですね。感動的な映画をみているような気分にさせられ、読み手は想像力をかき立てられます。家族の中でも、Nちゃんが、今夢中になっている小さな妹にスポットを当て見事に書き広げています！

『ランドセル』

「これ、タイガース色だから、いいんじゃない。」

と、お父さんが言いました。ぼくは、

「それがいいね。」

と言いました。ぼくは、こういう色のランドセル、初めて見たと思った。お母さんが、

「本当に、それでいいの。」

と言いました。ぼくは、

「これがいいの。」

と言いました。

それで買ったのは、黒ときいろで、とってもかっこいいランドセルです。今でも、たいせつにつかっています。（小三・MM君）

ランドセルを買うに至った出来事を当時の両親とのセリフのやり取りだけで表現するとは新鮮ですね。M君が気に入って買った思い入れのあるランドセルだからこそ、今でも大切にしているのでしょうね。ランドセルを買った経緯とそれに対する想いが絵本風に見事に表現されています！

『ランドセル』

「入学おめでとう。」

これは、三年前ぐらいの話です。私が、

「これから、ランドセルに教科書をいれるんだね。」

というと、お母さんが、

「六年間つかうから、大切につかいなさいよ。」

と言いました。

それから三年後、ランドセルは一年生の時よりもとてもよごれていました。私は心配です。なぜかというと、これからどんどんよごれてしまって、ランドセルがボロボロになったりしないかなぁと思うからです。そして、ランドセルがかわいそうだなぁと思うからです。

ランドセルは、あいぼうみたいなそんざいで、ランドセルがないと教科書をいれられないので学校にいけなくなってしまうからです。（小三・WMさん）

回想シーンを「入学おめでとう。」というセリフで始めることで、読み手を一気にその時へとタイムスリップさせてしまいますね。ランドセルを人にみたて「かわいそう」「あいぼう」など「擬人法」を使うことで、Mちゃんのランドセルに対する愛着を上手に表現しています。見習いたいテクニックです。

『ランドセル』

「こと、こと、こと。」

わたしのランドセルの中には、いろいろ入っています。学校のしていでランドセルの色や形はきまっています。

わたしは、ランドセルはきたなくなったら、かいかえるのかな、と思っていましたが、なんと、六年間ずっと使うそうです。それを聞いて、六年間つかうのだったら、大切にしないとなぁ、と思いました。妹は一年生だから、まだきれいでいいなぁ。と、ランドセルを思うとそう思います。

いつもは、ふつうに登下校していて、ランドセルのことなんか気にしてなんかいませんでしたが、これからは、大切にきたなくならないようにつかいたいと思います。

（小三・NAさん）

ランドセルの「こと、こと、こと。」という音から、Aちゃんの背中でランドセルがゆれている場面が目に浮かびます。五感を働かせた良い文章ですね。作文を書いてみて、あらためて、それを手にした日のことを思い出し、大切にしようと思ってくれたことが嬉しいです♪

『ランドセル』

ランドセルは、みんなとはちがう色がいいと思います。

ランドセルはふつう赤系の色だと思います。うちの学校のクラスもみんな赤色です。でも、私だけ水色という変わった色です。

一年生のころ、水色のランドセルがとてもキレイでかわいかったので買いました。でも、みんな、ランドセルの色は、赤やピンクでした。私は、みんなとちがう色だったので、初めは、水色にしなきゃよかったと思っていました。

でも、使っているうちに、別にみんなとちがう色でもいいや、と思うようになりました。なぜなら、すぐに自分のランドセルだとわかるし、自分だけのランドセルと思えるからです。

今では自分のランドセルが水色でよかったな、と思っています。私は、あと一年少しかランドセルを背負わないけど、水色のランドセルを大切に使っていきたいと思っています。（小五・HEさん）

「意見」→「事実」→「思い出」→「理由」→「まとめ」と実によく考えられた構成になっていますね。元気の良い明るいEちゃん、水色のランドセルがよく似合うでしょうね。「意見」から始める意見文の良いお手本です。みなさんも是非参考に！

『ランドセル』

私には、三年生のころから仲の良い小浦じゅりちゃんという友達がいます。その子は、かわいいというよりも、かっこいい女の子なのです。その子のランドセルの色は、とても明るい黄色です。じゅりちゃんは、みんなの赤のような色じゃないけど、とっても似合っています。

他にも、須藤あきらちゃんという、おしとやかでかわいらしい女の子がいます。そのこも、みんなとはちがって、ランドセルの色はうすい茶色です。

「どうしてみんなとちがって茶色なの？」

と聞いてみました。すると、

「赤系の色は好きじゃないから茶色にした。」

と言っていました。あきらちゃんに茶色のランドセルはとても似合っていて、すごくかわいいです。

私は、赤のような色ですが、いろいろな色を、いろいろな人がしょっていても、あざやかだし、似合っていていいと思います。

（小五・TMさん）

かっこいいじゅりちゃんには、うすい黄色。おしとやかでかわいらしいあきらちゃんにはうすい茶色。秘めた情熱をもつMちゃんには赤色。ランドセルもそれぞれの個性に合っているという素敵で興味深い意見作文でした。